わーい クスミの

# お楽しみ箱

第13回　久住昌之

## インモー図書館の巻

毎日暑いですね。暑い。

また自宅で発掘しました。一九七八、九年に僕が描こうとして途中で飽きちゃって描くのをやめた未完成漫画です。ペンで描いた、いや描こうとしたのは初めてで、ムズカシかった。全12ページの作品です。

描き初めてから、図書館というのは本棚というものがあり、これが描くとなると大変なことだ、ということがわかった。主人公の顔を同じに描くのも大変だった。ベタを塗るのもすぐハミ出しちゃうし、ホワイトはボタボタするし。アタマでは、上からこう見たあーゆーアングル、というのがあっても、実際にはどう描けばいいのかわからない。スクリーントーンを貼る以前のペン入れの段階での挫折でありました。

ページを追ってちょっとアラをさがしてみましょう。

1ページ目。

2コマ目の人物の耳が異常に小さい。

3コマ目の人物のアタマがカボチャやETのごとくつぶれている。2コマ目ではワイシャツを着ているのに3コマ目の後ろ姿は背広のように見える。

2ページ目。

1コマ目、バックの男の髪の光が面積が広すぎてハゲに見える。

3コマ目のデッサンはムチャクチャ。だけどワイシャツの下にランニングシャツが透けて見えるのはいい。

5コマ目もいいが左手のデッサン異常。

3ページ目。

2コマ目と3コマ目の、メガネと顔の内容の比率が違いすぎ。2コマ目の人物は気持ち悪い。

4ページ目。

2コマ目の主人公のアゴというかエラが重い。重すぎる。眼鏡もフレームが鈴木健二のもののようだ。

3コマ目の主人公の右手は死んでいる。

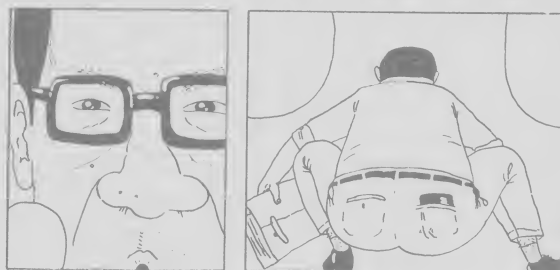
5コマ目の主人公は後ろ向きに階段を上っているように見える。この右手もヘン。

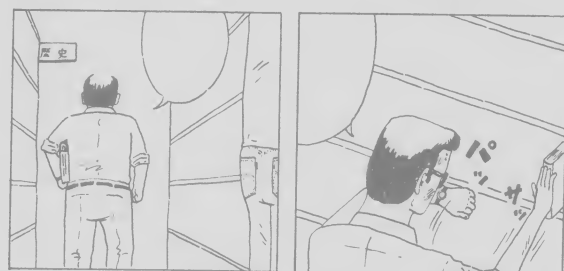
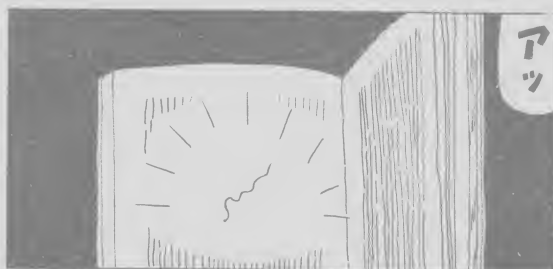
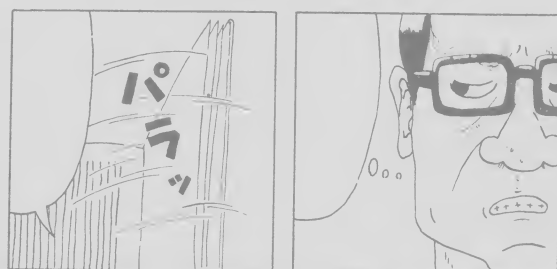
6コマ目では眼鏡が顔に対してまた小さくなって、エラが赤瀬川原平先生状にトンガッテいる。

というような具合です。

下描きと吹き出し内のセリフは消してしまいましたが、さてどんな事を言っているんだかわかりますか?

1ページ目

2ページ目

3ページ目

4ページ目

# 恥ずかしい話してみよう

## 今回のテーマ・身のほど知らず足クサ男

●うちの事務所には丸目蔵人というちょんまげをしたアシスタントがいます みうらと、神田み法子の近くに住んでます 手坂でしました。

足ガクサイという事は、人間にとって汚点である。どんなにカッコイイ男でも、またカワイイ女でも百年の恋は醒めます。あの酢のもの様な臭いは、誰にだって似合いません。

私の友人に、サザエのツボ焼き男と呼ばれる奴がいます。これは以前、何かで書いたかも知れませんが、年寄りの自慢話として、また聞いて下さい。ある日、そいつ(ここではN君)と同居している(ここではT君)が、家に帰ってみると、何やら、うまそうな臭いがするではありませんか。それは、まさしく、サザエのツボ焼きの臭いだったのです。「おまえ、うまそうなモン焼いてるじゃないか」とTが言うと、「え!何にも食ってねーよー」とNは答えました。台所のスミズミまで捜したのですが、結局サザエのツボさん見つけられませんでした。何とよくよく、臭いの元をさぐってみると、Nの体から発せられている事が分りました。Nの足クサの臭いが、何かのひょう子にサザエのツボ焼きに似ていたのでした。それ以来、Nはサザエのツボ焼きと呼ばれ、自ら「サザエでも洗ってくるかなぁ~」と陽気に風呂場で足を洗う光景が見られました。この間、うちの事務所に、宝島などで仕事をやっている佐藤克之が来た時、"ツ~ン"とソラ豆の臭いがしました。まさか、佐藤くんがソラ豆を持っているわけはなく、すぐにー

N
サザエのツボ焼き

かんべんですよ~
ゲ~
プィ~
ガン
こりゃたまらん…

# じゃんちゃんのんちゃんの

佐藤くらの足クサと分かった。人それぞれ、ニオイは違う。僕も泉麻人先生に言わすと、バナナの体臭があるらしい!。女のアソコがチーズの臭いがすると言った奴がいたが、僕は一度もそーゆー目に会った事がない。輸入盤屋のレコードの臭い、と言った者もいたが、なるほど色々あるらしい。でもスカトロ・マニアの人たちは、臭ければ臭いほどいいので、そうゆう人たちのためにも、足クサはあるのだと思う。自分でも嫌になるくらいだ、と言うKさんは、自分の足にビニール袋をかぶせて防いだが、かえって足クサは増すばかりだったと嘆いていた。いや、大変なものですよ。ホント。

大丈夫そうに見えるが…
ビニール袋

〃今年の夏は足クサがオシャレ〃ポパイやアンアンで特集する日も近い、このごろではある。

## 足の皮を食べるヤツ!!

そーいえば、足がクサイのもやだけど、私の友達(男)は、ナント、足の皮をはいで食べるのが趣味とゆうからオドロキだぜ!!

まず、お風呂から出てきたら、足のウラで皮が白くふやけてる所をさがし、そこをていねいにはがします。そしたら一度鼻のそばにもってきてクンクンし、それからクチュゴックン!とたべるそーな。こらえらいことでっせ、あんたはん。手の爪んとこにできたササクレなんかは、ちょいと歯でひんむいてそのままごっくんすることはあるけどさ。

①白くふやけたカワ
②クンクンする
③クチュクチュゴックン!!
ポイ!!

まぁ気持ちはわからないわけではありませんが、やっぱりかわってるわ。んで問題の足の皮の味をきくと『味は無い、だけどコンニャクの薄切りみたいでさ、それになんか自分の体の一部だから愛着があるじゃん。ニクメないんだよね。これ一回やるとやめられないよ』だって。びっくりしたねオラ。その人の足は普段はもちろん酢のニオイ。んで皮はもうボロボロ。こーゆう人とセックスするのにはやはり勇気が必要です。

## 今回のけつろん

洗ってくさけりゃもー大変

よくぞやったぜ顕一郎!! 今度住所とほしい本(850円のやつ)を書いて送ってくれ。

くまもとの本田顕一郎の作品

ウマイネー、と思わずうなってしまった作品である。しつこく伝言をしてるあたりも、彼のじめっとしてそうな性格が出ていて良い。来月もぜひ送ってくれ!!

上

いつかこーなるんじゃないかナーと思いつつ

だらだらと金を集めちゃった人。
青林堂はその辺マメです

松戸市の森雄一の作品

たぶん、ナガノ会長のことをやってるんだと思うけど…。ちなみに、うちの社長は、ナガイといいます。たしかにマメだ

上

ズボラな青春

いやァ、尻をふくのがめんどうなので、いつもネコになめてもらってますよ。

菊池桃子

苦林韻二郎(26)
会社員
血液O型
かに座 独身

おヨメさんぼしゅう中!!
ネアカでひょうきんなギャルがいいナ♡

ティッシュ

多摩市のちょめちょめちゃんの作品

じーっと待ってる姿が動物的で良い。猫が、まねき猫の目をしていますね。

上

東村山市の高橋圭輔の作品

じゃまは、キホン的にこういう世界が好きである。この肩かけカバンとゆうのは片方の肩ばっかりにかけてると体が曲がってしまうんだよね。

上

ずらっと並んだ嫌いな食べ物
ぼんカレー
らんぼうホルモン
なめくじ
せみ
いりおもて山猫
しろざけ
ゆりね
うんこ

京都市の河合真人の作品

ゲテモノの中に「しろざけ」などと、素朴なものが入ってるのが良い。

↙久しぶりに青林堂にやってきてコーヒー牛乳をおみやげにいただいた。そのほか、いろんな人からいろんな物をいただく青林堂であります。この場を借りてお礼をゆいます。

青森市のピピン工藤の作品

先月号と同じウケをねらった様だが、2度はいけません。
しかし、抜ぎすてたズボンが愛らしくはある。

新潟のコーラルDの作品

勝手にしてくれ。しばらく考えてたけど、ウラに隠されたイミはわからんかった

中野区のペキン紀春の作品

きれいにまとまっている。

海老名市のHito珍宝の作品

我孫子のまさこんまお・ぶたろうの作品

こうまでそっくりだと何かヒミツがあるのではないかと考えてしまう。じゃまのいではある。実は2人は生まれてすぐ離れ離れになった双子か何かで、このコーナーがきっかけで再会したりなど、そこにドラマが生まれる 鉛筆

太田区のぬかみそ姉妹の作品

そういやあ、子供の頃近所に、年中青っパナをだしている友達がいて、あいつのしょんべんは長かった。

神戸市の岸田森の作品

岸田は、ずいぶんキヨウなかっこうでセンズリをするなあ。これでは深い快感が得られないだろう…。体位を変えることをおススメしたい。

札幌市の北海太郎2の作品

むかし、チンポを立たして、そこにEPレコードをさして、チャンバラをする、とゆう遊びが、じゃまのいの周りで流行ったことがあった。まんとなく、それを思い出した作品である。
キミもやってみたまえ。おもしろいよ。

上杉清文卍手塚能理子の

# ラッキーカムカム 親切オバさん篇

第37回

## 涙がこみ上げます

おあつーでごんす。ついにテレビがぼっこわれてしまいました。テレビッ子の私は悲しいです。しかしテレビを見ないとものすごくヒマだったこともわかりました。あんまりヒマなもんで毎日ゲームセンターに行って遊んでます。ゲームは面白い!!私はすぐ熱中するタイプなので、ゲームの最中はスゴイですよ。ゼビウスやギャラガ、スターフォースなどの宇宙もんのときなんか、もう自分がロケットになっちゃって、ミサイルをよけるとき体もちゃんとよけます、攻撃するときなんか足をつっぱって力いっぱいボタンを押しています。んで、気がつくと指に水ぶくれができてるわ、片足はつってるわでボロボロんなって帰ってくるのです。楽しそーでしょ、ホホホホ。

ところでオジさんはスーパーマーケットに行ったことあります?スーパーの店員てあまりアイソがよくないんですよね平均的に。しかし、私がよく行く近所のスーパーに、最近新しいパートのオバさんがいるんですが、このオバさんがメチャクチャアイソがいいんです。オバさんはおもにバーゲン物を担当していて、先日も私がバーゲン物の腕時計を見ていると、そのオバさんが「おねーさん、この時計すごくいいのよ、ネジまくと動くのよ、私もこの時計してるんだけど、朝ネジまくと一日中動いてますよ、朝一回だけだからめんどくさくないでしょ」ときたのです。ストッキングのバーゲンのときも、「あのね、このストッキング足がほそく見えるのよ、私も今はいてるのホラね。これすごく丈夫よ、切れるまでデンセンしないんだから、アナタ!お買い得よ」とおっしゃるのです。

私は始め冗談かと思いましたがそうじゃないんです。オバさんは真剣に仕事をしているんです。その上、私がある日バーゲン物を買ったら、私の家まで運んでやる、とゆってきかないんです。「家が近いからいいですよ」と断わったんですが、そのオバさんは「いいからいいから」とゆっていきなり人の紙袋をひったくってしまいました。私は仕方なくアパートまで運んでもらっちゃいました。その運んでもらったものは、トイレットペーパーでした。あ〜〜〜、ありがたい人です。

しかし、この天使のよーなオアイソオバさんは、残念ながら同僚からはきらわれているみたいで「ねえ、ちょっと」と若い店員に話しかけてもプイッと横を向いて無視されています。ナントかわいそーなオバさんではありませんか。私はそんな不幸にもめげずにニコニコオアイソする姿を見ると涙がこみ上げてきます。

そこで相談なんですが、このオバさんをオジさんとこの劇団「土地ころがし」の客の呼びこみ係に抜擢してもらえないでしょうか、若い娘の方がオジさん好みだとは充々承知しておりますが、このオバさんもなかなか捨てたモンではないと思います。清文オジさん、よろしくおねがいいたしましたよ〜〜〜ん。

（能）

## オジさんも好きです

お答えいたします。オジさんは自分の口からいうのもナンですが、笠置シズ子の大ファンで、とくに買物ブギなんかいまでも歌詞はほとんど憶えていないほど大好きです。たぶんそのせいかどうかは知りませんがオジさんは少年時代には子供でした。で、よく、おつかいに行ったものです。自慢するほどのことですが、オジさんはコロッケを買う名人でした。近所の肉屋さんではオジさんが顔を出すと、おッ、コロッケが来たぞ、などとなかば軽蔑したような目つきでオジさんのことをひやかし、子供心をズタズタに傷つけて笑いものにしたものです。それでもオジさんはひどく鈍感だったので、毎日のようにコロッケを買いに行きました。そのころのオジさんはまだ、人間はそんなにまでしてもコロッケが食べたいものなのである、という真理を知らなかったのです。

そんなオジさんでしたが、ある日を境に、バッタリと道に倒れてしまったのです。偶然にも、オジさんは見てしまったのです。肉屋さんの店員のかたが、羽根をむしりとって全裸にしてしまったニワトリの首に、鋭利な刃物で切りかかる地獄のような光景を、オジさんはわざと目撃してしまいましたのです。皮一枚でつながっている首をぶらぶらさせながら、その可哀想なニワトリさんは傷口から血を噴きあげて、あたり一面をやみくもに走り回ったりしていたのでしたが、しばらくすると、あっけなくあの世にいってしまったので

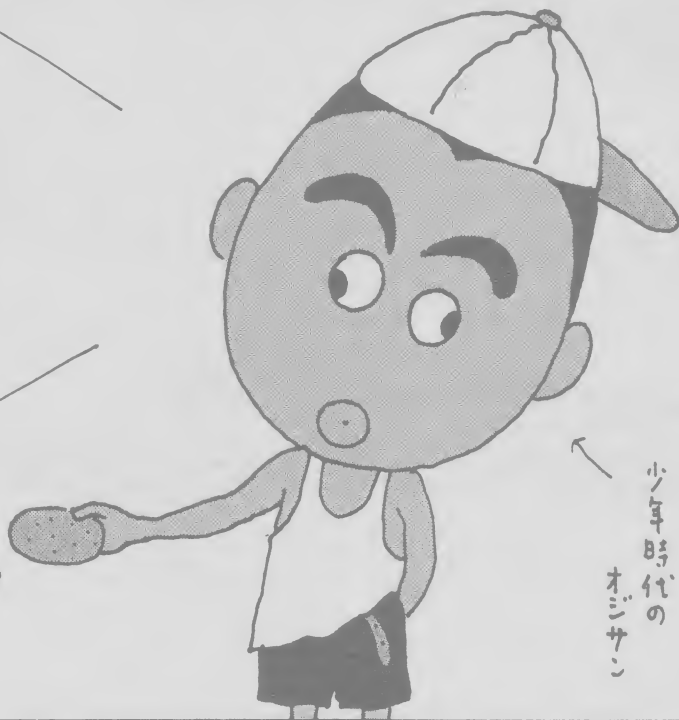



illustration 南 伸坊

した。オジさんはショックのあまりこのときから鶏肉が食べられない体になってしまいましたとさ。

まったく人前で平然とニワトリさんの死体を食べるような奴の気がしれない、と思わざるをえないのである。オジさんはニワトリさんを見るたびに、てめえたちゃ人間じゃねえと口ぎたなくののしってしまったものである。だからどうだというつもりもないが、オジさんはニワトリさんの卵は嫌いではない。

そんなわけで突然、話は変わるが天使のようなオバさんはオジさんも好きである。すごくいい人だと思う。ほとんどバカみたいにいい人であることをオジさんは疑うことができませんのである。できればオジさんの寺で女中さんのような家政婦さんのようなパートの土方みたいなことをしてほしいものである。こういう人が同僚に無視されてしまったとしても、オジさんはその同僚の人を責めることができないような気がする。たしかにそんな人がいたら、仕事がやりにくくてしかたがないだろう。無責任な善意ほど始末の悪いものはないからである。どーでもいいからさ、このオバさんを早くなんとかしてよ、と若い店員がうっとうしい気持になったとしても、それが若さにありがちないわゆるひとつのわがままであると非難することは、勝手知ったる他人の家へその家の主人が土足で踏み込んで汚したところを雑布がけしてしまうようなものである。ようするに、何がいいたいのか自分でもわけがわからないのである。

そんなわけだから、オジさんはたとえ見ず知らずの人間ではあっても餓死寸前の困った暗黒大陸の難民に愛の手をさしのべるよりも、ぜんぜん本人は困っていないオアイソだらけの天使のようなオバさんにおせっかいな合の手を入れてあげるほうが世の中丸くおさまるような気がいたしますなのです。むろんのことアナタも御存知のとおり、オジさんは全裸の若い娘が大好きであります。とはいえ、半裸でしかも下半身丸出しのオバさんが嫌いだというわけではないのです。なにごとにつけても、下半身を無防備にしてしまうということは大切なことなのです。むずかしいことはよくわかりませんが、オジさんはそう思います。

しかし、リクツをいってもはじまりません。よろしい。そのオバさんをすぐに連れて来なさい。たとえ短い余生ではあっても、半裸の老醜をさらして恥辱にみちた演劇の泥の中でのたうちまわることができれば、オバさんの人生に悔いが残らないはずがありません。

（清）

年中無休!
まんがしょてん
渋谷西武デパート近所パレス座すむかい
TeL(03)464-7193 朝10:00~夜10:00
8/18(日)湖川友謙サイン会やります
イラスト集(2,000円)発売記念
整理券は7/28から(限定300)

イラストレーション・真鍋太郎

## 私のベスト5

ふくさん太（杉並区）

八月号のガロは久しぶりに力作揃いで、とても充実していた。そこで近ごろ誰も投稿しない「私のベスト5」を選んでみた。

1 松本充代／鋼鉄のからだ
2 イタガキノブオ／闇夜の海から
3 森下裕美／サーカスの馬
4 鴨沢祐仁／クンー君
5 東元／ガソリン・ガール

やっと期待できる新人が出てきたようだが、東元氏の描く女性の素晴しく魅力的なこと！　頑張って欲しいぜ。

それと余談だが、森下さんの「荒野のペンギン」のカバー折り返しの著者近影がかわいいので本を買ったが、後で見たらファンの人の写真だった。彼女には、メジャーになっても、味のある作品をガロに発表し続けて欲しいと思う次第だ。

## 始めから大人のままでいたかった宣言Ⅰ

芳永勝巳（府中市）

最近の松本充代さんの漫画は、とても内省的だ。デヴューした頃の彼女の作品は、主人公と相手との人間関係、対人関係の中から主人公の心をある種のせつなさを持って描いていた。それは格別にポジティブな方向に向うものでもなければ、ネガティヴな方向に落ちていってしまうものでもなく、現在の状況・環境を〝そのまんま〟で生きていく者だけが持つせつなさだった。その種の感覚をしっかりと描き込む漫画家、樹村みのりさんに心傾ける僕は、松本充代さんの登場とその後の活躍を誌上で見るたびに、いいなぁ～、と思ってきたのだ。

ところが最近の彼女の作品は、発表するごとにせつなさではなく悲しみを感じさせるものになっていった。主人公の心は常に下へと向いていた。周囲の人間達の眼は上へと向いていた。そして主人公の〝生きざま〟だけがふんわりとその場に浮いていた。どうして下へ視線を向けなければならないのだろう。〝そのまんま〟はどこへ消えたのだろうか？

八月号の作品「鋼鉄のからだ」でもそれは顕著だ。女の子は、彼との人間関係の中で、どんどん自分の心の暗い淵へとはまり込んでいく。彼への拒絶反応は、対人関係の拒絶、社会への不適応という現代社会が孕む若者達の問題をも抉りだす。だけれども自分は手を差し出したくない。だけれども自分を受けとって欲しい。この矛盾した考えは、当然誰にも分ってもらえず、誰にも受けとめてもらえず、自分をひとりぼっちに追い込んだ彼女は、その心のやり場を彼へと向ける。ラストシーンを見た時、僕は安っぽい三流恐怖映画のエンディングを見ているのか、松本充代さんの漫画を読んでいるのか分らなかった。

松本充代さん。この深い悲しみは作品上のものですか？それともあなた自身のものですか？

最後になりますが、暗い漫画を描く人との印象しか持たなかったけれども、今にしてみれば貴重な作家(!!)だったと思うつりたくにこさん、心より御冥福をお祈りします。

## 主婦は菜の花なのです

伊東富子（江戸川区）

はじめてお便りいたします。

やまだ紫さんの「菜の花畑の青い耳があぁだこうだ…」という歌、ずっと考えつづけて何年か、今だによく意味がわかりませんが、先日ふと、「主婦は菜の花ではなかろうか」と感じてしまったのです。

主婦は書かないのです。いわば霧のようなものです。思いはあれど、アパートだの家の中だのに漂っております。自分の顔を持ちません。目は子宮に直結し、子宮がすべてのモトなのです。

主婦の脳は男の脳と別種です。おそらく白くて、グニャリと魚のはらわたの味がします。目で見たとたんに直感し、腰のあたりの紅い内臓の命令で体が動いてしまうなんて、とてもすてきな生き物です。

主婦は不気味です。めだたず強烈で、魔物の臭いをまき散らし、かわいい顔であんなたくましいむらさきの茎をもつ菜の花なのです。主婦の移動は根っ子をべり／＼ひき抜くので、家一個ゆるがす位の地震をおこします。次の場所では枯れっちまうか、新しい色を咲かせるかは、個々の生命力によりますが。

（突然、こういった感覚がムラッと湧いたのです。根拠はわかりません。）

念のためですが、やまださんゆかりの歌が、こういう感じを起こさせたのではありません。たま／＼の私の感情が、ある時やまださんの歌を思い起こさせたと、つまり私の独創が、やまださんの独創にピッタリ合う接点もいくらかはあったんではなかろうかと、ヒョイと手紙を書いてしまったわけです。

だとすると、何だかおもしろいのではないかと思います。連帯意識は持ちません。ちなみに、私自身は、ああいったこま／＼した感情、視点はわかりすぎる位わかるので、あまりスリルを

感じません。全く個人的感想です。
江戸川区上篠崎の本屋にガロを置いてもらった。あんまりしつこく頼むので、御主人は二冊入れ、私以外ついにこの三年間買う者がないので、今じゃあしっかり一冊しか仕入れない。私は目線が子宮より上に漂いだすとガロ剤を飲みます。うすむらさきの霧となって多分はあとと呼ぶべきものが、私のまわりの地面にしっかり降りてきます。ああら不思議です。背表紙から広告に至るまで読むので「読者サロン」も読みますが、ガロらしいとか、昔のガロとか思わず鼻クソをふんとばしてしまいそうな事は、私経験不足で書けませんが、ガロを気に入ってるし、とても大事に思っています。
極細の熱い視線のビームを送ります。いやさかであります。乱筆、お許し下さい。

## 『ガロ』雑感

杉山たつる（武蔵野市）

全く勝手なきめつけなんだけど、松本充代さんはもうマンガを描かなくなったんだと思ってた。何月号だかに描いた『肉欲』―あれできっとマンガ描くのやめちゃったんだと思ってた。まあ、毎月のガロの松本充代のマンガをよむというのはビンボーな僕のささやかなたのしみではあったのだけど、やっぱしマンガって読者へむけての私信なんだってゆー思いこみもいいんだけどさー、そんな思い入れがあの作品で断れたよーな気がしたもんだ。
で、いくらかのブランクののち、また描きはじめたのを見て、うれしいようなはずかしいような、なんか複雑な気持ちになった。
女のコの気持ちなんて男のコには結局わからない―そーゆーものなのかもしれないけどねー、松本充代のマンガがもってるなんかって何なのだろーか。
やっぱり今ってなーんにもないんだろーかという気持ちになる。男のイライラ、女のウキウキ、今の世の中男のコはイライラしてるし女のコはウキウキできる。このウキウキのダーク・サイドが松本充代のマンガなんじゃないでしょーか。
イライラしてるみうらじゅんはえらくシビアに今のワカモノ、男のコ、女のコの実情を突いちゃったりするしね。正直云って感動しましたけど、今月の『恥づかしい話―』には。
今回の結論、自由になりてー！と云ってるだけじゃ自由になれない、なんちってよー。ほとんどワケわからなくなっておりますが、さいごにつりたささんの御冥福をおいのりして。

## さようなら、つりたさん

杉本　学（熊本県）

6月14日というのはアマデウスを見に行って、つまんない映画だな、とすっかり疲れちゃった日である。
4年前、初めて買ったガロに載ってた「極寒」を読んだ時、世の中にはこんなヘタな漫画家もいるんだな、とあきれてしまった。で、読者サロンを読むと病魔と戦って云々とあったので、この人カゼでもひいてるのかな、それにしても才能ないよ、と思った。これがつりたくにこさんについての最初の印象である。
そんな印象が完全にひっくり返ったのはその年の夏「六の宮姫子の非劇」を読んだ時である。その作品は今まで見た事もないとんでもないもので、一体何だこれはと思った。このたった15枚の短編のおかげで僕は気分が悪くなり、どうしようもない不安に襲われてしまった。そんなショックを受けたのは、後にも先にもこの時一度しかない。
その後、他のつりたさんの作品を読んでいくうち、どんどん深みにはまっていった。そして遂には、ちくしょう二千円もぼりやがってと思いつつしっかり買った特集号に載ってた「溝」を読んだ時、俺はつりたくにこの全作品を読むのだ、などととんでもない事を決心するハメになってしまったのだ。
それにしても、何で今頃つりたくにこなんだろうと自分でも不思議に思ってしまう。だけど好きになっちゃったものはしようがないのだ。もう作者がつりたさんというだけで無条件に何でも許しちゃうのだ。あんまり良い傾向だとは思わないけど。とにかく、こんなに思い込んじゃう漫画家ってもう二度と現われないだろう、きっと。
5年でも10年でも待つ気でいた。生きていれば再び、という可能性、それがあるだけでよかった。本当にそれだけでよかった。
「憂子の日々」はつりたさん自身の姿だったのだろう。そして、あの時憂子が病院の暗い廊下で吐いた言葉は結局、現実のものになってしまった。
二度と、出られないのではないか、という不安が、いつもつきまとう……
さようなら、つりたさん。

## 冥福を祈ります

はなのまり

つりたくにこ氏の亡くなられたことを知りました。なんともいえない、やるせない気持で一杯です。こんなことなら、お見舞いの一文でも草しておくんだった、一ファンとして花の一本もお贈りするのだったと切なく思います。
半日なにもせずにガロのバックナンバーや、増刊の特集号や単行本をながめていました。夜になって、今みるんじゃなかったと悔い、窓ガラスをうつ雨の音が苛立たしい晩です。
生きていさえすれば、あのユニークな世界をまた見せてくれたかもしれない、その未然の可能性がクヤシイです。
おそらくはSLEとの苦しい闘いであったと思われる氏の、今は安らかなる眠りと、そして作り手と送り手が共有しうる無念とを思いつつ、冥福を祈ります。合掌。

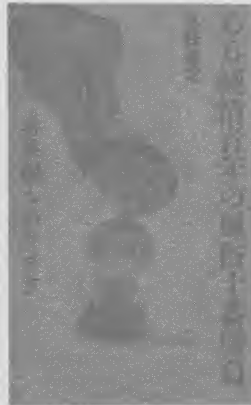
## 氏の特集を…

板野博行（高槻市）

八月号を読み終えようとする寸前、つりたくにこ氏の訃報に接し、僕の思考は停止してしまいました。数年前のガロの美しい表紙を描かれた時、病気をおしての作品と知り、心の内で回復を祈っていました。それが今度つりた氏の名を見るのが訃報になろうとは…。
ともかく今は氏のご冥福をお祈りするしかないのですが、ガロとしては氏の特集を組むべきでしょう。できれば別冊として充分練られた編集のもとに氏の名作の数々を再収録していただきたいものです。こう思うのは僕だけではないはずですから。
それでは僕の願いが編集部の方々にきいて頂ける事を信じて筆を置きます。

# BOOK&ゴシップ

㊙先月号でお知らせした久住昌之氏の新刊が出ました。「**純情青年の風俗十番勝負**」（はまの出版刊・定価850円）と図鑑絵本「**動物の人達**」（白泉社刊・定価千円）の2冊です。前者は風俗産業のルポなんですが、氏の身がわりに〝**体験**〟しに行った**加藤正一青年**にインタビューするという抱腹絶倒ノンフィクション、後者は、装丁・イラスト・文ともう**何から何まで**クスミ氏の手によって創られた、とても**フシギ**でヘンで**スバラシイ**一冊です。

図鑑絵本
動物の人達

♡えー、大和書房から「**男のコ大研究**」というオソロシイ本が出ました。（定価750円）**桜沢エリカ**さんの他に、シロートの女のコ4人が男のコをあらゆる角度から**テッテー的**に解明してゆくという、それはもう男のコにとっては大変な内容なのであります。そーゆー意味でモテたい男のコ、知りたい女のコは**マストバイ**、であります。ちなみに編集はアノEUオフィスであります。それにしても**カゲキ**な内容であります。

男のコ大研究

㊙**データーハウス**から『**吉本興業商品カタログ**』とゆう本が出ました。定価980円。テレビでおなじみの吉本興業のタレント方々の**写真や情報**がいっぱいの楽しめる一冊です。カバーイラストを**蛭子**先生の**隠し子**とも言われる**霜田恵美子**先生、カバーデザインを、『**ガロ**』表紙や『**お隣りさん**』のデザインでおなじみの**ステレオ・スタジオ**さんがやっておられます。**根本敬**先生も一枚 **絵コンテ通り**にイラストを描いて**一万五千円**もらったそうです「久びさに〝**仕事**〟をした」と言っておられました。

このたび渋谷に、**ワクワクする**様なギャラリーが誕生しました。**漫画家**、**イラストレーターの発表の場**としてできたこのギャラリーは『**ＨＢ ＧＡＬＬＥＲＹ**』という名前であります。そのオープニングセレモニーとして、『**ガロ**』でおなじみの作家方々の個展が開かれます。

●**鴨沢祐仁先生／8月1日〜14日**
●**たむらしげる先生／8月19日〜31日**
●**鈴木翁二先生／9月2日〜14日**

そして、9月16日〜28日は、イラストレーターの**霜田恵美子先生**。また、10月には、今月久びさ登場の**井口真吾先生**も予定されております。印刷では見**られない**作品が**盛りだくさん**です。ふるって観にいきましょう。連絡先401−1525、オフィス478−5033。

㊙夏が来た！Tシャツだ！というわけで、今年も『**コージーパロダクツ**』よりイラストTシャツを売り出します。**渡辺和博**さん、**丸尾末広**さん、**蛭子能収**さん、**根本敬**さん、**泉昌之**さん、**川崎ゆきお**さん、**みうらじゅん**さんなどのイラストが入った、**ハデな**Tシャツがあります。ほしい人は〒160新宿区高田馬場2の5の24の404。コージーパロダクツまでご連絡を！一枚2200円です。

♡**今月の長井勝一**

こないだ、「今日は一日中雨が降るので長グツを履いていっても大丈夫です」とNHKニュースで言っていたのを実行にうつしたワガ社長。午後から雨がやんだのを見て、「ケシカラン!!明日のニュースで謝るかな…」とちょっと怒っておられましたが、次の日のニュースで そのことに触れなかったので、

「天気予報なんて、そんなものかねえ」と、まだ梅雨があけない空をながめていられました。

## 残飯整理

♬毎月何かしらソフトボールの事を書いているので、皆さんにホントに燃えてるよーだなあ、と疑われているようですがその通りです。サイトーさんや山ノ井さんに毎回「白取君はナカナカ上手いんだけど今いちインパクトに欠けるね」と同じ事を言われ、その度に「次はMVPを狙う!!」と豪語しますが負けチームにいたりもっと目立つ人がいたりしてダメ。あげくの果て山ノ井さんに「何かこう…君の人生を物語ってるようだね」としみじみ言われてしまいました。住みにくい世の中になったものです。（道産子ちかちゃん）

❀夏になると、普段からいただき物（特に食べ物）が多い青林堂には、水ようかんが送られてきます。長井社長は、「やっぱり小倉がいちばんうまいね」と言っておられましたが、私も同感です。（じゃま）

♨先月号のつりたさんの訃報を読んで、たくさんの読者のみなさんから、問い合わせの電話や手紙をいただきました。あらためて惜しい人を亡くしたものだなと編集部一同痛感している次第です。できれば元気になってまたマンガを描き続けることができたなら……
御冥福をお祈りします。（周）

## ふみちゃんのアルバイト日誌

日頃の運動不足がたたってか、ベンピになってしまいました。あんまりひどいので、病院へ行って薬をもらって来たのですが、効いたはいいが効きすぎて、今度はゲリになってしまったのです。そのうえ、カゼはひくし、腰痛はひどいし、虫歯もできるしで、何か病気が団体で暑中見舞いに来たような毎日なのでありました。
できれば今度からは、別々に来てもらいたいもんです…。（史）

## 投稿作家諸氏へ

独創性のある作品を第一とします。多少作品が未熟であっても、可能性のあるものは意欲的にとり上げたいと思いますので、次のことを必ず守ってお送り下さい。

①寸法（仕上りの1.2倍です）天地273ミリ×左右184ミリ
②墨汁又は黒の製図用インクを使用のこと。（中間はスクリーントーンで。うす墨によるボカシは不可）
③セリフ、ナレーションは、鉛筆で読みやすく書き入れること。
④原稿の最終頁の裏に、必ず住所、氏名を記入すること。
⑤封筒の中にあて紙を入れ、封筒のへりをガムテープで補強しておくと、原稿のいたみがさけられます。
⑥返却用封筒（切手貼付）の入っていないものは、一切返却できません。又、毎月投稿が大変多いため、保管も不可能ですので、必ず守って下さい。（直接持ち込みの方は、前日にお電話下さい）
⑦原稿料は出ません。当社としても大変心苦しく遺憾なことですが、この問題は皆様にとっても重要なことですので、よく考えてから投稿して下さい。

送り先
〒101千代田区神田神保町一の六二
☎03・291・9556 青林堂